



BE THE INSPIRATION

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ

志木ロータリークラブ

2018-19年度 国際ロータリー会長 バリー・ラシン 「BE THE INSPIRATION—インスピレーションになろう」
 2018-19年度 第2570地区ガバナー 茂木 正 「想いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する」
 2018-19年度 志木RC会長 林 康雄 「凛として挑む 一朶の目的を目指し」

第2262回 例会

2019-1-9

- ◎司会 高橋健一郎 副会長
- ◎点鐘 林 康雄 会長
- ◎ソング 君が代・奉仕の理想
- ◎ソングリーダー 内山雄二郎 会員
- ◎四つのテスト 内山雄二郎 会員



ソングリーダー・四つのテスト 内山雄二郎会員



又帝釈天で家内安全と志木ロータリークラブの繁栄を祈願致しました。3日には、2年前にロータリーの日豪青年相互訪問で私の家にホームステイし、現在は成蹊大学へ留学中のリアム君から会いたいと連絡がありましたので、「今半」ですき焼きをご馳走しました。日本に来て一番美味しい物を食べたと喜んでいました。

ところで、今年の干支（えと）はというと「亥（いのしし）」を思い浮かべますが、正確には「子丑寅…亥」は十二支であって干支ではないそうです。

干支という場合は、「干」にあたる「十干（じっかん）」（甲乙丙丁…）と「支」にあたる「十二支」を組み合わせたものになるそうです。2019年は「十干」が「己（つちのと）」で、「十二支」は「亥（いのしし）」ですので、干支は「己亥（つちのとい）」となるそうです。

私は、単純に亥年だから野生の猪のイメージそのままに、「猪突猛進一直線に邁進しまし

「会長挨拶」

会長 林 康雄

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様と共に平成最後の新春を迎え、新年初例会を開催させていただくことを慶ばしく思います。新春を迎え会員の皆様はご家族の皆さんと健やかなお正月をお過ごしになられたと存じます。

私事になりますが、元日に柴又帝釈天へ夫婦で初詣に行ってきた。皆さんご存知の映画「男はつらいよ」の舞台となったことで有名なお寺です。京成金町線の柴又駅を降り、フーテンの寅さんこと車寅次郎の像とそれを見送る妹のさくら像を見てから参道を歩き柴

よう。」と挨拶を考えておりましたが、どうも「干支」を正確に理解するとそういう訳にはいかないようです。

2019年の干支「己亥」にはどんな意味があるのか調べてみました。「十干」も「十二支」も草木の成長に例えられるという共通点があるようです。「己」は「十干」の6番目で、草木が成長し十分に生い茂り整然としている状態で草木が花を咲かせる前の状態だそうです。これを組織に例えると、成熟した組織が足元を固め次の段階を目指す準備する年になるそうです。十二支には、それぞれ季節が割り当てられており、「亥」の季節は「冬」になります。亥の季節は、春の芽吹きに備え、じっと硬い種の中でエネルギーを内に込める時期となるようです。組織は、人材育成や設備投資、財務基盤を固める年となるようです。

「己」、「亥」いずれも、外に向けた活動というよりも、内部の充実を心掛け飛躍に備える年という事になるかもしれません。志木ロータリークラブに例えるならば、創立50周年へ向けて組織を固め花開くための準備の年と考えても良いのではないのでしょうか。

「幹事報告」

幹事 市之瀬正靖



1. RI 日本事務局より1月のロータリーレポート受信 1ドル=112円 (※前月と同じ)
2. 地区事務所より4件受信
 - ①地区大会の案内
日時：4月14日(日) 受付9:10～
場所：本庄市民文化会館
 - ②RI第2570地区PALAU慰霊ツアー案内

日時：3月1日(金)～5日(火)(早朝成田着)
訪問先：パラオ諸島共和国・コロール・ペリリュー島

費用：22万円

③青少年交換留学生月次報告

④地区社会奉仕委員会より世界遺産キャラン受入れの願い

3. 富士見RCより第2グループ第4回会長・幹事会議事録及び収支報告書受信

4. 米山記念奨学会よりハイライトよねやま Vol.225 2018.12.13 発行

5. 朝霞青年会議所より賀詞交換会案内受信
日時：1月12日(土) 受付18:30～

場所：ベルセゾン「飛翔の間」(6階)

6. 志木市スポーツ少年団より指導者交流会開催について受信

日時：1月26日(土) 19:00～

場所：志木市民会館パルシティ2階宴会場

7. 志木市商工会より平成31年新春講演会と新年賀詞交換会の案内受信

日時：1月18日(金) 受付16:00～

場所：志木市民会館パルシティ

8. 志木市青少年育成市民会議より秋の非行・薬物乱用防止キャンペーンの礼状受信

9. CPI教育文化交流推進委員会よりスリランカの教育里子に係る報告書受信

「RLI修了証伝達」

会長 林 康雄



三上隆俊会員、田中幸彦会員に、RLI(ロータリー・リーダーシップ・研究会)セミナーの修了証が授与され、林会長より伝達されました。

「ご夫人とご家族への感謝の日」

親睦活動委員会 委員 遠藤貴博

いつもロータリー活動にご協力いただいているご夫人とご家族へ感謝の印を贈ります。

13日 金剛 睦美様 18日 尾崎 初江様

19日 末富 喜久美様

「寿賀の祝」

会長 林 康雄

寿賀の祝を迎えられる会員の方へ、敬意を込めてお祝い申し上げます。

1月3日 傘寿の御祝 網島政雄会員



「『ロータリーの友』記事紹介」

雑誌委員会 委員 吉田靖夫



『ロータリーの友』1月号記事紹介

1月は職業奉仕月間です。

横組 P8 職業奉仕 Vocational Service とは何か 福岡西 RC 廣畑富雄

〃 P18 人と動物の優しい関係

小諸市動物園を支える小諸 RC の活動が紹介されている。

「卓 話」

会長 林 康雄

「『職業奉仕』の理念」



職業奉仕について「手続要覧」の声明では「職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である。」とあります。ロータリーの目的にも、「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し」とあり「事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること」とあります。やはり、キーワードは「奉仕の理想」或いは「奉仕の理念」です。職業奉仕に関する「奉仕の理想」或いは「奉仕の理念」について先人が語った言葉を理解することが、「職業奉仕」の何たるかを理解する近道になるかもしれません。

アーサー・フレデリック・シェルドンは“*He profits most who serves best*”「最も奉仕する者、最も多く報いられる」と言うフレーズで職業奉仕を語り、職業奉仕の父と言われた人です。シェルドンの考え方が「職業奉仕」の原点であるとするならば、彼がロータリーで示した「職業奉仕の理念」を知る事が「職業奉仕」を理解することになるかもしれません。

シェルドンは 1868 年にミシガン州で生まれ、ミシガン大学の経営学部マスターコースで販売学を専攻しました。卒業後、図書の訪問販売で素晴らしい営業成績を上げセールスマネージャーとなりましたが、その仕事を辞めて 1902 年にシェルドン・ビジネス・スクールをシカゴに開校します。シェルドン・ビジネス・スクールは、1921 年の段階でその

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい。

■新座 RC (木) 12:30~13:30 ベルセゾン

■和光 RC (月) 12:30~

郵便事業(株)和光支店3F

第2グループ各RC 例会日・会場一覧

事務局 048-473-7041

事務局 048-465-0088

2262-3◇

志木 RC 会報

卒業生の数が 26 万人といわれアメリカに数多くの経営学リーダーを生み出したと言われています。

シェルドンの経営学理念は継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営む、すなわち会社経営を学問だととらえて、原理原則に基づいた企業経営をすべきだと考えました。また、利益を独占するのではなくて、従業員や取引先に関係する人達と利益を適正に配分することが継続的に利益を得る方法だと考えていました。

シェルドンは 1908 年にシカゴ RC へ入会します。ロータリークラブは創立当時「親睦」と会員同士の「相互扶助」によって事業を発展させるための社交クラブの一つでした。そこへ、現在につながる「奉仕の理念」を提唱した人が、シェルドンでした。1911 年 8 月の全米ロータリークラブのポートランド大会で、商用で欠席したシェルドンのメッセージとして代読されたシェルドンの「私の宣言」が参加者に極めて強い印象を与えたために、演説の中で唱えられた“**He profits most who serves best**”「最も奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉が、この大会で「ロータリー宣言」の結語として採択され、演説の全文が、大会議事録として配布された報告書に印刷されるという結果に至りました。シェルドンの「私の宣言」と題されたこの演説は極めて哲学的で長文のものであったようですが、「事業を営むことは、経営学という学問を実践すること」「事業の発展は永く利益をもたらす顧客を確保すること」「人生の成功は自然の法則を調和させることによって得られる」「利他の心をもって、他人の成功を願うことが、自らが成功する秘訣である」という内容が語られていました。以後、ロータリーの「職業奉仕論」を語るにはシェルドンの提唱した“**He profits most who serves best**”というフレーズが使われることになり

ます。“**He profits most who serves best**”とは、「自分が他人からしてもらいたいと考えることを、まず他人にすること。」すなわち、自分が金銭を儲けたいと思うならば、まず他人に奉仕することであり、「先に奉仕があれば、必ず報酬が後からついてくる」と説いています。ビジネスマンの目的は発展的な事業を構築することであり、その目的を達成するためには、「奉仕の理念に基づいて、継続的に利益をもたらす常連客を確保することが必要である」と述べています。

シェルドンが定義した奉仕“**serves**”とは適正な価格で品物や技術を顧客に提供することです。品薄に乗じて法外な価格を設定して大きな利益を上げて、マーケットが正常に戻ったとき、誰からも相手にされなくなった例は記憶に新しいと思います。いつでも、どの場所でも、顧客がリーズナブルだと感じる価格を設定することが必要です。ただし付加価値が高い商品には高い価格がつくことは当然だとしています。

事業所における経営者、従業員の接客態度も奉仕です。つけんどんな態度をとられると、二度と行きたくなくなるものです。十分な品揃えも奉仕です。公正な広告も奉仕です。それから、取扱商品に対する知識も大切です。商品のアフター・フォローも大切です。自分の店で売った商品に対して責任を持つことが大切です。こういったものを総称してシェルドンは奉仕“**serves**”という言葉を使ったのです。こうした奉仕“**serves**”が守られている店には、再度足を運ぼうという気が起きます。親しい人を紹介しようという気も起きます。一現さんだけを相手にしていたのでは、事業の発展は望めません。リピーターや紹介を受けた人が再三訪れるからこそ、事業が発展するのです。たとえ一時的に客が来たとしても、その客が一回来ただけで愛想を尽かし、二度と訪れなかったなら、その店は必ず衰退します。これは製造業であろうと、小売業であろうと、医者であろうと同じです。

出席は会員の義務です。マークアップを忘れずに！

第2グループ各RC 例会日・会場一覧

◇2262-4

■朝霞キャロット RC (月) 19:00~20:00

シティ・イン北朝霞 3階ホール

事務局 048-470-6811

志木 RC 会報

■志木柳瀬川 RC (木) 19:00~20:00

ふれあいプラザ会議室(丸井8F)

事務局 080-8914-2008

シェルドンは奉仕“serves”とは「仕事を管理する人達（企業主）を管理すること。」「管理される人達（従業員）を管理すること。」「企業主と従業員に顧客を加えた集団を管理すること。」と定義しています。そして、更にこれに時間やエネルギーやお金や材料を無駄遣いせず有効に活用して保全することを付け加えることだとしています。これは、すべて安心と豊かな実りを獲得するための道であるとしています。

世に有用な職業に従事している人は全員、奉仕によって品物を造り、それを売っているのです。すべての従業員は、人に役立つものを作り、雇用主はこれを売っているのです。役に立つこととは奉仕“serves”の別名なのですとも言っています。

私達がイメージする「奉仕」とはかなり異なった定義であり、世に有用な職業に従事して働く行動は、全て「奉仕」だと考えてもよいように思われます。シェルドンは、“serves”という単語そのものについて、あまりにも多くの意味をもった単語なので、一言で言い表すことは不可能であると前置きして、“serves”を受けた立場から得られる「満足感」であると述べています。

シェルドンは、また事業における人間関係について次のように述べています。自分が事業上得た利益は、自分一人のものではない。自らの事業は、従業員、取引業者、顧客、同業者によって支えられている。これ等の人々と利益を適正に配分すれば、自らの事業は継続し発展することを、自らの事業所で実証することが出来る。自らそれを実証することによって、業界全体の職業倫理を向上させることができる。

このシェルドンの「職業奉仕理念」は現在でも立派に通用する真理です。今日まで、ロータリアン達は、シェルドンの「職業奉仕理念」をよく理解し、それぞれの産業構造にマッチするようにアレンジし、自らの事業や業界に適用する努力をしたのです。いろいろな

職業奉仕の事例を研究しながら、リピーターを確保する方法を研究してきたのです。リピーターを確保するためには、全面的な信頼を確保しなければなりません。そのためには、高い倫理基準を持つことが必要になってきます。すなわち、高い倫理基準は、「職業奉仕」を実践したことによって得られる結果であるとしています。

ロータリーの『職業奉仕』を象徴する「最も奉仕する者、最も多く報いられる」とは、奉仕理念に基づいて継続的な利益をもたらす顧客を確保するために行うあらゆる活動のことであり、職業奉仕の実践による『受益者』はロータリアンだということです。奉仕の実践によって得られる“profits”はあくまで金銭的な利益のことであり、精神的なものは含まれておらず、「清貧」という発想はありません。まず、自分の事業を建設的に発展させることが重要で、それが出来て、初めて対社会への奉仕活動が可能になるということだとしています。

最後にポールハリスの言葉で締めさせていただきます。「社会に役に立つ人間になる方法はいろいろありますが、最も身近で、しばしば最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります。」

（「職業奉仕の真相を探る」「職業奉仕・理論と実践の徹底的分析」第 2680 地区 PDG 田中毅筆から引用）



●出席報告 出席向上委員 神山昌之

会員数44名 出席義務者35名 免除者9名

本日出席	本日欠席	本日出席率
37名	5名	88.10%

前々回 MU	前々回修正出席率	平均出席率
(0名中0名)	100%	93.62%